

| 専門分野 基礎看護学 | 科目名：看護学概論 | 講師：専任教員 | 1単位 30時間 (1年次前期) |
|-------------------|---|---|---------------------|
| 学習目標 | 1. 看護の本質を理解し、看護の概念を理解する。 2. 看護の対象としての人間を身体的・精神的・社会的統一体として学ぶ。 3. 人間にとっての健康の意義について理解する。 4. 保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解し看護活動のありかたを理解する。 5. 看護の歴史を通して、現在の看護の位置づけ及び諸問題を理解する。 | | |
| 回数 | 主題 | 主な学習内容 | 講義形態 |
| 1 | 1. 看護とは | 1) 看護の本質 | 講義 |
| 2 | | 2) 看護の役割と機能 | 講義 |
| 3 | | 3) 看護理論家の看護概念 | 講義 |
| 4 | 2. 看護の対象の理解 | 1) 人間のこころとからだ 2) 生涯発達し続ける存在としての人間 | 講義 |
| 5 | 3. 国民の健康状態と生活 | 1) 健康とは | 講義 |
| 6 | | 2) 国民の健康状態 3) 国民のライフサイクル | 講義 |
| 7 | 4. 看護の提供者 | 1) 職業としての看護 | 講義 |
| 8 | | 2) 看護職の資格・養成制度・就業状況 | |
| 9 | | 3) 継続教育とキャリア開発 4) 看護職の養成制度の課題 | 講義 |
| 10 | 5. 看護における倫理 | 1) 職業倫理と看護倫理 2) 患者の意思決定支援と守秘義務 3) 倫理的ジレンマ | 講義 |
| 11 | 6. 看護提供のしくみ | 1) サービスとしての看護 2) 看護提供の場とチーム医療 | 講義 |
| 12 | | 3) 継続看護 4) 看護をめぐる制度と施策 | 講義 |
| 13 | | 5) 看護サービスの管理 6) 医療安全と医療の質保証 | 講義 |
| 14 | 7. 広がる看護の活動領域 | 1) 国際化と看護 2) 災害時における看護 | 講義 |
| 15 | 終講試験 | 筆記試験、まとめ | |
| 履修上の留意点 | | 1. 常に持参のテキストは「看護学概論」 他は必要時指示 | |
| 1) テキスト 2) 参考書 | | 1) 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(1)看護学概論 医学書院 2) F. ナイチンゲール著：看護覚え書き，現代社 2) 日本看護協会監修：看護者の基本的責務一定義・概念/基本法/倫理， 2) ヴァージニア・ヘンダーソン：看護の基本となるもの， 日本看護協会出版会 | |
| 評価方法 | | 1. 筆記試験 2. レポート | |

| 専門分野 基礎看護学 | 科目名：看護倫理 | 講師：専任講師 | 1 単位 15 時間 (3 年次前期) |
|-------------------|---|---|------------------------|
| 学習目標 | 1. 看護者としての職業倫理を理解する。 2. より良い看護の実現に向けた倫理的問題の分析および倫理的意思決定の方法を理解する。 | | |
| 回数 | 主題 | 主な学習内容 | 講義形態 |
| 1 | | 1) 患者の権利擁護 2) 患者のプライバシー保護 | 講義 |
| | | 3) 看護師の倫理規定 (1) 看護師の責務 (2) 看護実践に関わる倫理の原則 | 講義 |
| 2 | 1. 看護倫理と 職業倫理 | 4) 職業倫理 看護を取り巻く倫理的課題とその背景や 歴史の理解 守秘義務の厳守 個人情報保護 5) 道徳的ジレンマと倫理的課題 ① 日常のケア場面における倫理的課題 ② 先端技術医療における倫理的課題 | 講義 |
| 3 | 2. 看護師としての 自覚と責任のある 行動 | 1) 生命・尊厳権利の尊重と擁護 2) 守秘義務の厳守と個人情報の保護 3) 事故の責任と能力の的確な把握 | 講義 |
| 4 | | 4) 看護師としての健康と品行を維持 5) 環境問題における社会と責任の共有 6) ニーズの把握 | 講義・GW |
| 5 | 3. 意志決定のプロ セス | 7) 受容的・共感的態度 | GW |
| 6 7 | | 8) 説明と同意 9) 信頼関係を築く行動 | 講義 GW |
| 8 | 終講試験 | 筆記試験 | |
| 履修上の留意点 | | 1. 常に持参のテキストは 「看護倫理」 他は必要時指示 2. 配付資料は全て持参 <演習> 倫理的判断を求められる事例を用いて演習する。 | |
| 1) テキスト 2) 参考書 | | 1) 系統看護学講座 別巻 [13] 看護倫理 医学書院 2) 看護者の基本的責務一定義・概念/基本法/倫理 日本看護協会出版会 | |
| 評価方法 | | 1. 筆記試験 2. レポート 3. グループ発表 | |

| 専門分野 基礎看護学 | 科目名：共通基本技術 | 講師：専任教員 専任教員 専任教員 | 1 単位 30 時間 (1 年次後期) |
|-------------------|------------------------|--|------------------------|
| 学習目標 | 1. 看護活動における基本的技術を理解する。 | | |
| 回数 | 主題 | 主な学習内容 | 講義形態 |
| 1 | 1. 人間関係発展の 技術 | 1) コミュニケーションの意義・目的 2) 良好なコミュニケーションに必要な技術 3) コミュニケーション障害への対応 *人間関係論で学んだ信頼関係の構築など | 講義 GW |
| 2 | | | 講義 演習 |
| 3 | | | 演習 |
| 4 | 2. 看護における 観察・記録・報告 | 1) 看護記録とは 2) 記載・管理における留意点 3) 看護記録の構成 | 講義 |
| 5 | | | 講義 |
| 6 | 3. 感染予防 | 1) 意義 2) 標準予防策 3) 無菌操作 4) 感染性廃棄物の取り扱い 5) 針刺し防止 | 講義 演習 |
| 7 | | | 講義 |
| 8 | | | 講義 |
| 9 | 4. 安全確保 | 1) 安全管理対策 2) 誤薬防止 3) チューブ類の予定外抜去防止 4) 患者誤認防止 5) 転倒・転落防止 6) 薬剤・放射線曝露の防止 | 講義 |
| 10 | | | 演習 |
| 11 | 5. 学習支援 | 1) 看護における学習支援とは 2) 様々な場で行われる学習支援 3) 健康状態の変化に伴う学習支援 4) 個人・家族・集団を対象とした学習支援 | 講義 |
| 12 | | | 演習 |
| 13 | | | 演習 |
| 14 | 技術確認 | 感染対策に関する技術のチェック | 演習 |
| 15 | 終講試験 | 筆記試験/まとめ | 試験 |
| 履修上の留意点 | | <ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習形式を基本とするが、学生の学びを促すために適宜グループワークを取り入れる。 ・提示する DVD・動画を活用し校内実習前後の自己学習を行い参加する。 | |
| 1) テキスト 2) 参考書 | | 1) 系統看護学講座 専門分野基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院 1) 系統看護学講座 専門分野基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 医学書院 2) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 | |
| 評価方法 | | 1. 筆記試験 100 点 | |

| 専門分野 基礎看護学 | 科目名：日常生活の援助技術Ⅰ【環境】 | 講師：専任教員 | 1 単位 30 時間 (1 年次前期) |
|-------------------|---|--|------------------------|
| 学習目標 | 1. 環境調整の意義を理解し、快適な療養環境を整えるための技術を習得する。 | | |
| 回数 | 主題 | 主な習内容 | 講義形態 |
| 1 | 環境とは 人々の生活環境 | 1) 人間の健康と環境 生活環境の調整：家庭の暮らし | 講義 |
| 2 | | 生活環境の調整：地域の暮らし | 講義 |
| 3 | 1. 療養生活の環境 | 2) 生活環境の調整 (温度、湿度、照度、騒音、換気、採光、臭気、 色彩、プライバシー) | 講義 演習 見学等 |
| 4 | | | |
| 5 | | | |
| 6 | 2. 病室環境 | 1) 病室の構成 | 講義 |
| 7 | | 2) 病院で働く人々 (シャドー) | GW |
| 8 | | 3) 療養環境のアセスメント | 講義 |
| 9 | | ①病棟見学 (ICT) (病棟の構造、病室の構成、病室の環境測定) | 実習 |
| 10 | 3. 療養環境の整備 | 1) ベッド周囲の環境整備 | 講義演習 |
| 11 | | 2) ベッドメイキング | 講義演習 |
| 12 | | 3) 臥床患者のリネン交換 | 講義演習 |
| 13 | | 事例に応じた援助 | 演習 |
| 14 | 技術確認 | 環境整備などにかかわる技術チェック | 演習 |
| 15 | 終講試験 | 筆記試験/まとめ | |
| 履修上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> すべての時間は講義形式を基本とするが、学生の能動的な学びを促すために適宜グループワークを取り入れる。 提示される DVD 等動画を活用し、校内実習前後の自己学習を行い参加する。 | | |
| 1) テキスト 2) 参考書 | 1) 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 1) ナイチンゲール著：看護覚え書き、現代社 2) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 | | |
| 評価方法 | 1. 筆記試験 | | |

| 専門分野 基礎看護学 | 科目名：日常生活の援助技術Ⅱ 【食事・排泄】 | 講師： 専任教員 | 1 単位 30 時間 (1 年次後期) |
|-------------------|--|---|------------------------|
| 学習目標 | 1. 栄養状態を整える意義を理解し、対象の状態に適した食事援助の技術を習得する。 2. 排泄を整える意義を理解し、対象の状態に適した排泄の援助技術を習得する。 | | |
| 回数 | 主題 | 主な学習内容 | 授業形態 |
| 1 | 1. 人間の健康と 食事 | 1) 食事の身体的・心理的・社会的意義 2) 健康な食生活 | 講義 |
| 2 | | 3) 栄養状態のアセスメント 4) 摂食能力および食欲、食に関する認識の アセスメント | 講義 |
| 3 | 2. 医療施設で提供され る食事 | 1) 食事の種類と形態 2) 食事の提供方法 | 講義 |
| 4 | 3. 食事の援助 | 1) 経口的栄養摂取の援助 (1) 食事の介助 | 講義 |
| 5 | | (2) 嚥下訓練 | 講義 演習 |
| 6 | | 2) 非経口的栄養摂取の援助 (1) 胃管 | 演習 |
| 7 | 4. 人間の健康と 排泄 | 1) 排泄の身体的・心理的・社会的意義 羞恥心とプライバシー | 講義 |
| 8 | | 2) 排泄行動のアセスメント 3) 排泄物の観察 アセスメント | |
| 9 | 5. 対象の状態に 応じた排泄の 援助 | 1) 自然な排泄を促す援助 (腹部のマッサージ、排便コントロール) (1) 便器・尿器を用いた排泄の介助 (2) ストマ管理 | 講義 演習 |
| 10 | | 2) 対象の状態に応じた援助 | 演習 |
| 11 | | 3) 排泄を促す医療処置を伴う援助 (1) 一時的導尿・持続的導尿 (2) 留置カテーテルの管理 (3) 浣腸 | 講義 演習 |
| 12 | | | |
| 13 | | | |
| 14 | | | |
| 15 | 終講試験 | 筆記試験・まとめ | 試験 |
| 履修上の注意 | | 1. テキスト・参考図書を活用して、予習をして授業に臨むこと 2. グループワークでは、他者の意見を積極的に聞き、自己の意見を述べること。 3 計画的に技術練習をして、食事や排泄の援助技術に臨むこと | |
| 1) テキスト 2) 参考書 | | 1) 系統看護学講座 専門分野基礎看護学〔3〕基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 2) 根拠と事故防止から見た 基礎・臨床看護技術 医学書院 | |
| 評価方法 | | 筆記(食事：50点 排泄：50点 計100点)を実施する | |

| 専門分野 基礎看護学 | 科目名:日常生活の援助技術Ⅲ 【姿勢と体位】【睡眠・休息】 | 講師:専任教員 | 1単位 30時間 (1年次前期) |
|-----------------------|--|--|---------------------|
| 学習目標 | 1. さまざまな移動方法を理解し、対象の状態・状況に応じた安全・安楽な移動技術を習得する。 2. 休息の種類と意義を理解し、適切な睡眠・休息を促すための援助技術を習得する。 | | |
| 回数 | 主題 | 主な学習内容 | 講義形態 |
| 1 2 | 1. 人間の活動 | 1) 活動とは 2) よい姿勢とボディメカニクス 3) 活動・運動の能力のアセスメント | 講義 |
| 3 4 | 2. 姿勢と体位 | 1) 体位・体位変換、安楽な体位の調整(ポジショニング) ①体位変換 ②車椅子・ストレッチャーへの移乗・移送 ③歩行・移動介助 | 講義 |
| 5 6 7 8 9 | 3. 移動・移乗動作の援助 | 1) 歩行介助 2) 車椅子、輸送車への移乗動作介助・移送 3) 運動機能維持・拡大に向けた援助(自動・他動運動の援助、ROM) | 講義 演習 |
| 10 11 | 4. 睡眠・休息の援助 | 1) 休息の種類と意義 2) 睡眠・休息状態のアセスメント 3) 安楽な休息・睡眠を促す援助方法 4) 睡眠障害とその援助方法 5) 安静の弊害 | 講義 演習 |
| 12 13 14 | 5. 安楽確保の技術 | 1) リラクゼーション ①安楽な体位の調整 ②安楽の促進のためのケア 2) 褥瘡 | 講義 演習 |
| 15 | 終講試験 | 筆記試験・まとめ | |
| 履修上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> すべての時間は講義形式を基本とするが、学生の学びを促すために、適宜グループワークを取り入れる。 提示される DVD 等動画を活用し、校内実習前後の自己学習を行い参加する。 | | |
| 1)テキスト 2)参考書 | 1) 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 1) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 | | |
| 評価方法 | 1. 筆記試験 100点 | | |

| | | | |
|-------------------|--|------------------------------------|------------------------|
| 専門分野 基礎看護学 | 科目名：日常生活の援助技術Ⅳ 【清潔・衣生活】 | 講師：専任教員 専任教員 | 1 単位 30 時間 (1 年次前期) |
| 学習目標 | 1. 療養生活における衣服の機能を理解し、対象に適した衣服を整える援助技術を習得する。 2. 身体の清潔を保つ意義を理解し、対象の状態に適した清潔保持の技術を習得する。 | | |
| 回数 | 主題 | 主な学習内容 | 講義形態 |
| 1 | 1. 療養生活における衣服の機能 | 1) 衣服を身につける意義 | 講義 |
| 2 | | 2) 病衣の種類と選び方 | 講義 |
| 3 | 2. 対象の状態に適した寝衣交換 | 1) 和式寝衣の交換 2) プルオーバー式の寝衣の交換 | 演習 |
| 4 | 3. 人間の健康と清潔 | 1) 清潔の意義 | 講義 |
| 5 | | 2) 身体各部の清潔の援助方法 (1) 清潔援助のアセスメント | |
| 6 | | (2) 援助の必要性の判断 (3) 援助方法の選択 | |
| 7 | | 3) 口腔ケア (歯磨き) 4) 手浴・足浴 | 演習 |
| 8 | | 5) 洗髪 | 講義 演習 |
| 9 | | | |
| 10 | | 6) 清拭 | 演習 |
| 11 | | | |
| 12 | 7) 陰部洗浄 | 演習 | |
| 13 | | | |
| 14 | 技術チェック | 清潔に関する技術のチェック | 演習 |
| 15 | 終講試験 | 筆記試験/まとめ | 試験 |
| 履修上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> すべての時間は講義形式を基本とするが、学生の学びを促すために適宜グループワークを取り入れる。技術は自主練習を行うこと。 提示される DVD 等動画を活用し、校内実習前後の自己学習を行い参加する。 | | |
| 1) テキスト 2) 参考書 | 1) 系統看護学講座 専門分野基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 | | |
| 評価方法 | 1. 筆記試験 | | |

| 専門分野 基礎看護学 | | 科目名：ヘルスアセスメント | 講師：専任教員 | 1 単位 30 時間 (1 年次前期) |
|-------------------|----------------------------|--|---------|------------------------|
| 学習目標 | | 1. 対象の健康状態について、身体的側面および心理・社会的側面から情報収集し、総合的にアセスメントするための基本的知識と技術を習得する。 2. 身体的側面については、フィジカルイグザミネーション(身体診査)の基本技法を系統的に習得する。 3. 心理・社会的側面については、必要な理論やツールを用いてアセスメントの視点について理解する。 | | |
| 回数 | 主題 | 主な学習内容 | 講義形態 | |
| 1 | 1. 看護におけるヘルスアセスメント | 1) ヘルスアセスメントの考え方 | 講義 | |
| 2 | | 2) アセスメントプロセス (ゴードン) | 講義 | |
| 3 | 2. 問診・インタビュー、ヘルスヒストリー(健康歴) | 1) 問診・インタビュー | 講義 | |
| 4 | | 2) ヘルスヒストリー(健康歴) | 講義 | |
| 5 | 3. フィジカルアセスメント | 1) ヘルスアセスメントの基本技術 | 講義 | |
| 6 | | 2) 身体各部の測定 (モニタリング・フィジカルイクザミネーション) バイタルサインの実際 | 講義 | |
| 7 | | | 演習 | |
| 8 | | | 演習 | |
| 9 | 演習 | | | |
| 10 | 4. 系統別アセスメント | 1) 系統的フィジカルアセスメントの実際 (1) 呼吸器系 (2) 心臓・循環器系 | 演習 | |
| 11 | | (3) 腹部・消化器系 (4) 筋・骨格系 | 演習 | |
| 12 | | (5) 神経系 (6) 頭部、頸部、視聴覚系 | 演習 | |
| 13 | 5. 心理・社会的側面からのアセスメント | 1) 心理・社会的側面からのアセスメント 身体的・精神的・社会的痛みについて | 講義 | |
| 14 | 技術確認 | 技術チェック | 試験 | |
| 15 | 終講試験 | 筆記試験 | 試験 | |
| 履修上の留意点 | | <ul style="list-style-type: none"> ・身体的・精神的・社会的痛みについて学習する。 ・系統的アセスメントおよび心理・社会的側面からのアセスメントの分類はアセスメントツールを使用する。 ・アセスメントの視点と方法については、アセスメントツールの主要な項目を通して学ぶ ・看護の展開方法に先行して学習する。 | | |
| 1) テキスト 2) 参考書 | | 1) 系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I 基礎看護学 医学書院 2) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 2) フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる 医学書院 | | |
| 評価方法 | | 1. 筆記試験 | | |

| 専門分野 基礎看護学 | 科目名：看護の展開方法 | 講師：専任教員 | 1 単位 30 時間 (1 年次後期) | |
|---------------|---|---|--------------------------------------|----------|
| 学習目標 | 1. 対象の持つ健康上の問題を明らかにして、その問題を解決するための系統的で意図的な思考過程としての看護の展開方法を理解する。 | | | |
| 回数 | 主題 | 主な学習内容 | 講義形態 | |
| 1 | 1. 看護過程の 基盤となる考え方 | 1) クリティカルシンキング 2) リフレクション(内省・省察・熟考) 3) 臨床判断モデル | 講義 演習 | |
| 2 | 2. 看護モデルと アセスメント分析 | 1) 看護モデルとアセスメント分析 | 講義 演習 | |
| 3 | | 2) 系統的情報収集 (1) 観察含む (2) 情報の種類(O データ、S データ) | | |
| 4 | | 3) データ収集法 | | |
| 5 | 3. 看護過程 | 1) アセスメント (1) 情報の分類・整理 (2) 情報の分析方法 (原因・現状・成り行き)の推測・判断) (3) 総合 (4) 全体像の把握 | 講義 演習 | |
| 6 | | 2) 看護問題の明確化(看護診断、共同問題) (1) 看護診断の定義 (2) 優先順位の決定 | 講義 演習 | |
| 7 | | | 3) 看護目標と看護計画 (1) 期待される成果の明確化・看護目標 | 講義 演習 |
| 8 | | (2) 看護計画の立案 | | 講義 演習 |
| 9 | | | 4) 看護の実践 (実施) | 講義 演習 |
| 10 | | 5) 評価・修正 (1) 評価の方法 (2) 対象の日々の健康状態の変化に合わせた計画の修正 (3) 期待される成果や患者の反応に合わせた計画の修正 | | 講義 演習 |
| 11 | | | 講義 演習 | |
| 12 | | | 講義 演習 | |
| 13 | | | | |
| 14 | | リフレクション | 振り返り | 講義 演習 |
| 15 | 終講試験 | 筆記試験・まとめ | 講義 演習 | |
| 履修上の留意点 | | 1. すべての時間は講義形式を基本とするが、学生の学びを促すために 適宜グループワークを取り入れる。 2. 学習内容にそってレポート課題を提示する。 <演習>・シミュレーション学習等を通じてアセスメント・看護診断・ 計画・実施・評価の段階における関連性と連続性を理解させる。 | | |

| | |
|---------------------------|--|
| <p>1) テキスト 2) 参考書</p> | <p>1) 系統看護学講座 専門2 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術 I、医学書院 1) 看護診断ハンドブック 第11版、医学書院 1) 看護が見える vol.4 看護過程の展開 メディックメディア *その他、授業のなかで随時紹介する</p> |
| <p>評価方法</p> | <p>1. 筆記試験 2. レポート</p> |

| 専門分野 基礎看護学 | 科目名：診療に伴う技術Ⅰ | 講師：専任教員 専任教員 | 1単位 30時間 (1年次後期) |
|---------------|---|---|---------------------|
| 学習目標 | 1. 診察と検査の意義、目的を理解し、診察・検査・処置をうける対象への看護技術を習得する。 | | |
| 回数 | 主題 | 主な学習内容 | 講義形態 |
| 1 | 1. 診療の補助技術と 看護師の役割 2. 診察時の看護 | 1) 診察・検査・処置の目的 2) 診療における看護師の役割と倫理 | 講義 |
| 2 | 3. 検査時の看護 | 1) 検体検査 (尿・血液・痰検査) | 講義演習 |
| 3 | | 2) 生体検査 (心電図・X線検査・CT・MRI・核医学検査・内視鏡) | 講義 演習 |
| 4 | | 3) 生体検査 (超音波・肺機能検査・心電図・経皮的動脈血酸素飽和度) | |
| 5 | 4. 穿刺・洗浄時の看護 | 1) 穿刺時の看護 2) 洗浄時の看護 | 講義 演習 |
| 6 7 | 5. 採血時の看護 | 1) 検体採取 (採血) | 講義 演習 |
| 8 | 6. 救急法と看護 | 1) 救命救急技術 | 講義 演習 |
| 9 | 7. 創傷管理 | 1) 創傷の治癒過程と影響因子 2) 創の種類 3) ドレッシング材の種類と特徴 4) 包帯法 | 講義 演習 |
| 10 | 8. 酸素療法時の看護 | 1) 酸素吸入療法の目的と種類 2) 使用器具の種類と特徴・取り扱い、援助方法 | 講義 演習 |
| 11 12 | 9. 吸引時の看護 | 1) 排痰のケア・吸入 2) 吸引 | 講義 演習 |
| 13 | 10. ME 機器の原理と看護の役割 | 1) 輸液ポンプ・シリンジポンプ 2) 心電図 3) パルスオキシメーター 4) 人工呼吸器 など | 講義 演習 |
| 14 | 技術確認 | 診療の補助技術 (採血) の技術チェック | 演習 |
| 15 | 終講試験 | 試験、まとめ | 試験 |
| 履修上の留意点 | | 1. 常にテキストは、基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 2. 配布資料はすべて持参 3. 学習形態はその都度指示 4. 侵襲のある演習を行う場合、教員の見守りが必要である。 | |

| | |
|---------------------------|---|
| <p>1) テキスト 2) 参考書</p> | <p>1) 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 2) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院</p> |
| <p>評価方法</p> | <p>1. 筆記試験</p> |

| 専門分野 基礎看護学 | 科目名：診療に伴う技術Ⅱ | 講師：専任教員 | 1単位 30時間 (1年時後期) |
|---------------------|--|---|--|
| 学習目標 | 1. 薬物を取り扱う際のチームにおける看護師の責任と役割を理解する。 2. 薬物療法の意義・目的を理解し、薬物療法を受ける対象への看護技術を習得する。 | | |
| 回数 | 主題 | 主な学習内容 | 講義形態 |
| 1 | 1. 薬物療法時の 看護師の役割 | 1) 正しい与薬 (1) 与薬の基礎知識 | 講義 |
| 2 | | 2) 薬の管理 (毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤・抗悪性腫瘍薬を含む) | 講義 演習 |
| 3 4 | 2. 与薬の技術 経口 | 1) 経口与薬・口腔内与薬 | 講義 DVD |
| 5 6 | 2. 与薬の技術 外用薬 | 2) 吸入 超音波ネブライザー 姿勢の保持、口腔内の洗浄 | 講義 DVD |
| 7 8 | | 3) 点眼 4) 点鼻 5) 点耳 6) 経皮的与薬 7) 直腸内与薬 | 講義 DVD |
| 9 10 11 12 | | 2. 与薬の技術 注射 | 8) 皮内注射・皮下注射・筋肉内注射・静脈内注射 9) 点滴静脈内注射 10) 注射準備(薬液吸い上げ) 11) 皮下注射・筋肉内注射・点滴静脈内注射(ワンシ ョット) |
| 13 14 | 2. 与薬の技術 輸血管理 | 1) 援助の基礎知識 2) 主な輸血製剤 3) 輸血による副作用 4) 実施前の評価 5) 実施方法と観察 | 講義 DVD 演習 |
| 15 | 終講試験 | 筆記試験・まとめ | 試験 |
| 履修上の注意 | | 1. テキストは必ず持参。配布資料はすべて持参。学習形態はその都度指 示する。 2. 侵襲のある技術を行う場合、教員の見守りが必要である。 | |
| 1) テキスト 2) 参考書 | | 1) 系統看護学講座 専門分野基礎看護学〔3〕基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 2) 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院 | |
| 評価方法 | | 筆記試験 100点 | |

| 専門分野 基礎看護学 | 科目名：看護研究 | 講師：専任教員 | 1 単位 15 時間 (2 年次後期) |
|-------------------|--|---|------------------------|
| 学習目標 | 1. 看護研究の意義と必要性を理解する 2. 研究方法の基礎を理解する | | |
| 回数 | 主題 | 主な学習内容 | 講義形態 |
| 1 | 研究とは | 研究の意義と必要性 研究の意義・必要性・重要性 研究の条件 看護理論と看護研究 看護研究における倫理的配慮 | 講義 |
| 2 | 研究の種類と方法 | 研究の種類と研究の方法 研究の種類と方法 研究過程 | 講義 |
| 3 | 研究計画書とは | 研究計画書の必要性和書き方 研究の始め方：リサーチクエスト 研究計画書の書き方 | 講義 グループ ワーク |
| 4 | 研究論文とは | 研究論文の種類と構成 抄録の作成と発表方法 | 講義 |
| 5 | 文献の活用 | 文献の活用 1) 文献の検索方法 2) 文献の読み方整理の仕方 文献のクリティーク | 講義 |
| 6 | 研究計画書の実際 | 8. 研究計画書の実際 | グループ ワーク |
| 7 | 発表会 | 9. 研究計画書発表会 | 発表会 |
| 履修上の留意点 | | 1. 常に持参のテキストは「看護研究」 他は必要時指示 | |
| 1) テキスト 2) 参考書 | | 1) 系統看護学講座 別冊 看護研究 医学書院 1) わかりやすいケーススタディの進め方 照林社 | |
| 評価方法 | | 1. 筆記試験 2. 提出物 | |

| 専門分野 基礎看護学 | 科目名：看護研究演習 | 講師：専任教員 | 1単位 15時間 (3年次前期) |
|-------------------|---|---|---------------------|
| 学習目標 | 1. 研究のクリティークの方法を理解し、適切な文献の活用ができる 2. 自己の看護実践の意味づけができる | | |
| 回数 | 主題 | 主な学習内容 | 講義形態 |
| 1 | 文献検索のクリティーク | 1. 文献検索の方法 2. 文献のクリティーク | 講義 |
| 2 | ケーススタディの意義・方法 | 1. ケーススタディとは 2. ケーススタディの進め方 3. 論文の構成とまとめ方 4. ケーススタディの事例・テーマの決定 | 講義 |
| 3 | 看護研究計画書の作成 | 1. 看護研究計画書とは 2. 看護研究計画書の作成 | 講義 個人ワーク |
| 4 | 原稿の作成 | 1. ケーススタディ原稿の構成 2. 原稿の作成 | 講義 個人ワーク |
| 5 | プレゼンテーションの方法 | 1. 発表の種類 2. 口頭発表の準備 3. 効果的なプレゼンテーションとは 4. 要旨・発表原稿の作成 | 講義 |
| 6 | ケーススタディ発表会準備 | 1. 発表用パワーポイントの作成 2. 要旨・発表原稿の作成 | 個人ワーク |
| 7 | | 1. 質疑応答 2. 講評 | グループワーク |
| 8 | ケーススタディ発表会 | 発表会 | 発表会 |
| 履修上の留意点 | | 1. 常に持参のテキストは「看護研究」 「ケーススタディの進め方」 | |
| 1) テキスト 2) 参考書 | | 1) 系統看護学講座 別冊 看護研究 医学書院 2) 看護学生のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社 | |
| 評価方法 | | 1. ケーススタディ原稿 2. 発表会 成果物 | |